

令和元年度 庄内南部定住自立圏共生ビジョン懇談会（会議概要）

- 日 時 令和元年11月11日 午前10時から
- 会 場 鶴岡市役所 6階 大会議室
- 次 第 (1) 庄内南部定住自立圏共生ビジョン（第2次）の改定について
(2) その他
- 1. 開会 : 進行 企画部次長 佐藤豊
- 2. あいさつ : 伊藤眞知子 庄内南部定住自立圏共生ビジョン懇談会会長
- 3. 協議 : 座長：伊藤会長、 資料説明：政策企画課

質問の概要

全般

○委員： 定住自立圏構想の大きな目標と具体的連携事業との関連性について、教えてほしい。また、重要業績評価指標の進捗状況とビジョン改定との関連性、ビジョン改定のルールについて教えてほしい。

→ 事務局（政策企画課長補佐）

地方圏から人口流出を食い止めるダム機能を確保することが、定住自立圏の大きな目標となっており、庄内南部定住自立圏を構成する3市町で、圏域人口、高齢化率、合計特殊出生率について目標設定している。こうした大きな目標を踏まえ、具体的な連携事業をビジョンに掲げて取り組んでおり、各項目に重要業績評価指標 KPI を設定している。また、KPI とビジョン改定との関連性、ビジョン改定のルールについては、毎年ビジョン懇談会を開催し、委員の皆様は KPI の進捗状況を報告するとともに、委員の皆様からご意見をいただいた上でビジョンの改定を行うこととしている。

○委員： 大幅な人口減少、少子高齢化が叫ばれる中で、今後、庄内南部定住自立圏だけでなく、庄内全体で考えていく気はあるのか。ぜひそういうことも視野に入れて取り組んでもらいたい。庄内は一つともよく言われる。今後どのような方向で進めていくのかを伺う。

→ 事務局（企画部次長）

庄内全体で人口が落ち込んでいるということは、共通認識であると思う。その上で定住自立圏などの制度を活用して、色々な取組を進めているが、基本的には、庄内をいかに盛り上げていくか、どう人口減少を食い止めていくかということは共通して大事なことと考える。それぞれの自治体で努力していくことも必要であり、また、連携して取組を進めていくことも大事であり、いずれにしても庄内という観点を見失ってはならないと思う。

○委員： 定住自立圏構想全体では、人口減少を指標に設定しているが、その中で具体的な連携項目は、全体の指標の達成にどれくらい効果が期待できるのか。具体的な連携項目をみても、この制度を利用して、既存の取組を他市町に広げてやっているだけに見える。今のトレンドから考えて、この取組を進めていっても、若者の減少、人口減少をどのくらい食い止めることができるのか、見えてこないと感じる。シビアな検証をする必要はないのか。

→ 事務局（企画部次長）

定住自立圏構想を進めるきっかけは、市町村合併が一段落して、その次の段階として広域連携をどのように進めていくか、その上で人口減少が進んでいることを踏まえて、対策が必要であったろうと考えられる。定住自立圏構想を進める前段では、色々な意見があったと認識しており、定住自立圏構想を進める大きな理由としては、財政的なメリットが大きい中でこうした連携を進めていくべきでないかという実情があったと聞いている。ビジョンを策定していく中で人口の目標設定も求められていたと認識しており、人口減少対策を最大目標として、具体的な連携項目を積みあげてきたかについては、根拠としては弱い部分もあるのではないかと思う。

定住自立圏構想にかかわらず、色んな部分で人口減少は大きく関わっているので、総合的に考える必要があると思っている。

福祉

○委員： 養護老人ホームの建設を控えているということだが、待機者はどのくらいいるか。将来的な見通しは、どのように考えているか。

→ ワーキング部会（長寿介護課長）

来年度予定している湯野浜思恩園は、現在定員 50 名のところ 30 名に減らす予定となっている。この定数減については、待機者の状況をみて実施している。現在 10 名程度待機者がいるが、一時期より少なくなってきたし、介護保険制度との関係もあり、それに対応した現実的な移転整備を検討している。

産業振興

○委員： 水田農業の研究・研修活動等の促進について、事業実施主体の庄内水田農業推進機構が解散し、事業費見込みも計上されていないが、この項目をビジョンに残しておく必要はあるのか。

→ 事務局（企画部次長）

項目全体を削除する場合、議会の議決が必要となる。今回、議決案件がこの部分だけであるため、次に議会案件が出てきた場合、この項目も併せて削除していきたい。

○委員： 農業経営者育成学校 SEADS の取組を新たにビジョンに盛り込む考えはないか。

→ 事務局（企画部次長）

どのようにビジョンに盛り込んでいけるか、農林水産部と相談していきたい。

○委員： 今年の8月に就航したジェットスターについて、庄内の魅力をどのように見込んで就航に至ったのか、お聞きしたい。

→ ワーキング部会（地域振興課長）

庄内地域の観光的魅力の磨き上げによって、誘客が図れるという期待も大きく、また、先端生命科学研究所をはじめ色々な企業等が、今後さらに活発化して、人の動きが多くなるのではないかという話もあった。庄内には大学関係の若者もいるが、もっと観光関係の旅行者の吸い上げや若者層の利用も見込めるという期待から、就航に至ったと伺っている。

結びつきやネットワークの強化

○委員： 全国的に高齢者の交通事故の増加に伴って、運転免許の返納が年々多くなっている。一方で一人暮らし高齢者が増加しており、これらの方々の通院、買い物に大変不便をきたしているという声が多く聞こえる。定住自立圏構想の中で、将来どのように対応していこうとしているか、考えを持っているか聞きたい。

→ 事務局（企画部次長）

地域の交通網の整備が大きな課題となっている。特に公共交通と言われるバスについて、利用者の減少がどんどん進んでおり、民間企業としては維持できないので撤退となり、ますます不便さに拍車がかかるということが懸念されている。こうした部分については、地域で色んなアイデアを出しながら、デマンドタクシーやボランティア輸送といった地域で支える交通網が、今少しずつ実施され始めている。より地域に合った望ましい交通網をどう構築するか、また買い物難民については、行政だけでは対応が難しいと思われるので、関係機関と協力しながら解決策を模索するということが重要であると考えている。

○委員： モビリティマネジメントとは、どういう意味か。

→ ワーキング部会（地域振興課長）

バスの路線や時間などが利用しやすくなっていない状況を改善して、市民の皆様から乗っていただけるような取組をするもの。

○委員： 道路整備や維持管理の連携による市町道ネットワークの向上について、調書では近接目視による点検が一巡したとあるが、ビジョンの取組の内容において、橋梁の現状を把握するとしている。調書とビジョンとの整合は、どうなっているか。

→ 事務局（企画部次長）

橋梁点検については、近接目視による点検が一巡したと認識している。その上で毎年どの部分を優先的に修繕していくかについて、危険度が高いところから修繕すべきということでランク付けをしており、優先順位を付けて修繕している。

なお、形成協定の内容については、変更には議決が必要であり、タイムラグによる齟齬が出てくる箇所もあるかと思うが、見直しのタイミングの時に正しい表現に修正してまいりたい。

意見の概要

全般

○委員： 庄内南部定住自立圏構想が始まって8年ぐらいになるが、三川町だけではできない介護認定や休日・夜間診療所については、事業の効果も出ている。婚活についても当初から見ると、出会いの場が増えたと思う。定住自立圏の事業効果が表れていると思う。

○委員： 三川町には病院がない中で、医療格差は絶対あってはならないと思うが、鶴岡市、酒田市には大変お世話になっており、非常に切実な問題だと思っている。各自治体がそれぞれ協力してやっていかなければならない。予算措置を見てみると、鶴岡市だけが負担しており、三川町が負担していないのは大変申し訳ないことだと思う。やはり協力して全体として考えていくべきだと思う。ごみ処理についても、単体ではできない部分が大いにあるので、ぜひ一体になりながら、協力しながら考えていくべきでないかと思う。

医療

○委員： 医師確保の取り組みについては、庄内病院を中心とした医師確保・医療従事者の充実の取り組みとなっているが、地域全体で考えなければならぬと感じる。休日・夜間診療所の診療体制の充実にも当然つながっていく。ビジョンに書いていないので、その部分が弱いのではないかと感じる。庄内南部地区には、医師会、歯科医師会、薬剤師会の3師会があるが、医療に関して行政が主導して、3師会と共通して話し合える場がない状況となっている。そうした場も作れば良いと思う。東京にあるアンテナショップなどで、庄内南部地区の情報発信してもらえるとよい。医師会でもいろいろ募集しているが、最近新卒の事務職を受けてくれないという状況がある。人を増やしていくためにはそうした努力をしていく必要がある。

○委員： 歯科医師会は、鶴岡市、三川町、庄内町で67人の医師がいるが、そのうち休日歯科診療所に関わってくださる先生は、50名弱となっている。年末年始、GWがある中で、先生たちには1年も前から当番の割り当てをしなければいけない状況となっている。長期間の連休の中盤や元日は、なかなか予定が立てられない。また、歯科衛生士も不足しており、求人を出しても応募も少なく、山形の専門学校に進む人も少なく、今年は一人だったようだ。県外に進学すると、給料等が良くて地元に戻ってこないで、年中衛生士不足という状況となっている。こうした中で、先生方も休日夜間診療所に携わっているが、健康課とも相談しながら、今のところスムーズにしている。休日歯科診療所は、人数的に約480人となっているが、日にちによって偏りがあって、年末年始だと昼食も食べることができない状態で診療する日もある。休日診療所の状況を分かっていたら、今後ともご協力をお願いしたい。

○委員： 休日・夜間診療所の見せ方として、受診者数で見せているが、2次救急の負担軽減が目的になっているので、そこも合わせた比較をしないとよくわからない。救急診療のうち、どのくらい休日・夜間診療所の受診なのか。荘内病院は増えているのか。KPIだけに捉われない見せ方、評価をしてもらいたい。

○委員： がん緩和ケアの相談件数は増えているが、まだ啓発事業に400数十万かけてやっているが、相談件数、チームで対応した件数、症例検討会、退院カンファレンスを増やしていくことが必要。地域包括ケアを考えていくうえで、緩和ケアは非常に大きな切り口となる。そのうえで、介護関係者とどう連携していくかということにシフトしていくべき時期に来ている。

産業振興

○委員： 新規就航の空港会社については、利用拡大が広がらないと定期運航が難しい時代なので、利用拡大に向けてみんなで協力していく必要がある。

○委員： 赤川漁協の一番の悩みは、組合員の減少で、ひと頃の3分の1に減少している。その減少の大きな要因として、川に魚がいなくなった、川の一体感がなくなったということだと思う。河口から30キロメートル、旧朝日村の入り口くらいまでがいい漁場であるが、河川の悪化、河床が深くなったことが、大きな要因となっている。サクラマスの放流等行っているが、魚が住める河川環境の整備を進めてもらいたい。

○委員： ジェットスターの利用促進については、庄内からの利用者を増やすことも大事だが、理想的には首都圏からの利用者を増やす施策が重要になってくる。その施策において、若い人の感覚が不足しているとジェットスターから言われている。ジェットスターの利用者で庄内に来る人は若い人が多い。そこに向けた情報発信が必要。そうした中で、若い定住者で起業する人が少しずつ出てきている。従来の観光業ではなくて、山菜取りのガイドや自転車でのガイドなど、インバウンドを呼び込む仕事をしたり、Iターンで庄内に定着する人が増えているので、私たちの気が付かない視点をもっている。その人たちの意見を踏まえて、1市2町で情報発信をしていく必要があると思う。

結びつきやネットワークの強化

○委員： 中山間地域において、今後、ますます重要となってくる高齢者等の買い物難民対策について、JAでも移動店舗の事業を行っているが、行政と一体となった取組が必要であるので、次回の見直しの機会でのよいので、ビジョンに盛り込むことを検討してほしい。

- 委員： 加茂水族館に行くバスについては、観光客にとって、土日になると本数が減って不便になるという状況である。生活視点と観光客の利便の両立という観点を入れていくと、行政の負担を押えながら路線を維持していきやすいと思う。国もここ 2, 3 年で観光路線にも指導に入ってきているので、そういう視点を入れていったらいいと思う。

- 委員： 三川町の場合だと、デマンドバスでは町内を出られない制約もあるようで、バスが一番取り組みやすいと感じる。今後、高齢者の免許返納も増えていくと思うので、足の確保については、庄内全体で取り組むべき問題だと思っているが、まずは庄内南部から提案を示してもらえるとありがたい。